

# 学生グループディスカッションにおける助言チャート作成の試み

## Chart-based Advice to Improve Students' Group Discussions Skills

湯浅 将英  
Masahide Yuasa

湘南工科大学  
Shonan Institute of Technology

Several studies have reported different ways to improve the discussion skills of students, as many companies have attempted to use both job interviews and group discussions in their recruitment processes. However, these studies have introduced methods for improving the skills of students who already possess adequate discussion skills; such methods may be ineffective in improving the skills of those students who do not have sufficient discussion skills. In addition, the advice in the literature is not easy to understand for students who are not specialists in communication. Therefore, this study attempted to provide suitable advice based on the existing skill level of the student and to establish effective advice methods. The advice in this study was prepared by the students and provided to other students. Based on interviews, we propose a chart to provide simple advice that can be easily understood by students. We have described the results of the interviews and the criteria for giving advice and its effects on students.

### 1. はじめに

近年の企業の採用選考では、面接だけでなくグループディスカッションが用いられている。このため、学生に向けたディスカッションスキルの改善方法やアドバイスを述べた書籍等が出され[中野 2018][西口 2015][吉田 2014][大嶋 2013][大塚 2011], ディスカッションに関する研究も報告されている[塩田 2020][本多 2020][三浦 2020][小川 2019][川島 2019].

しかしながら、それらの書籍や報告では、主に専門的知識に基づいた改善方法等が挙げられ、コミュニケーションやディスカッションの専門家ではない学生にとって、専門的なアドバイスは理解しにくい・実践しにくいケースがあると考えられる。コミュニケーションの専門家が指南するアドバイスではなく、たとえば学生目線で考えられたアドバイスのほうが理解も促せ、実践しやすい可能性がある。

そこで本研究では、学生間で互いにアドバイスをしてディスカッションスキルを改善していくことを想定し、学生でも理解しやすく、具体的で実践しやすいアドバイスを目指す。さらに学生同士でアドバイスする際の手助けをするため、「特定の改善すべき点に関して、どのようなアドバイスをすればよいかをまとめた“助言チャート”」の作成を試みる。将来チャートをシステムに実装することでアドバイス提供の自動化／半自動化できる可能性がある。

本稿では、チャート作成に向けたこれまでの取り組みとして、ディスカッション収録後の学生へのインタビューに基づいて作成したアドバイス、およびチャートの一案を説明する。作成したアドバイスの有用性についてのアンケート結果も述べる。

### 2. アドバイスの作成

本研究では前述のように、学生間で改善点をアドバイスすることで互いのディスカッションスキルを向上させることを想定する。その際、コミュニケーション等の専門知識がない学生にも理解しやすく、具体的で実践しやすいアドバイスにすること、各学生にどのようなアドバイスをすればよいかを示したチャートを作成することが目標である。このために次項(1)～(3)が必要と考えた。

(1)各学生に、ディスカッションにおける目標や改善したい点をインタビューによりたずねる

ここでは、個人ごとに目指したいディスカッションスキルの目標が異なり、それによって与えるべきアドバイスが変わる、と考えた。これに基づき、各個人(後述するグループディスカッション収録の各参加者)には改善したい点・伸ばしたい点をたずねることとした。事前にたずねることを決めておくインタビュー形式やアンケートは用いず、答によって聞き直しをするインタビュー形式とする。これにより、インタビューされた人が大雑把なことを述べている場合には細かなことを聞き直すこと等ができる。

(2)“経験や練習を重ねる必要”としたアドバイスは控える  
“経験や練習が必要”としたアドバイスは、具体性に欠けてしまい、また、学生間でアドバイスをして改善する際に曖昧なアドバイスとなり、本研究の目標とかけ離れてしまう。このため、経験や練習を求めるアドバイスの代わりになるものを考える。

(3)「言うべきセリフ」を助言することで改善を容易にする  
アドバイスは、なるべく言い方(言うべきセリフ)の改善を示すこととする。たとえば「相手の立場に立って発言しましょう」といったアドバイスは、アドバイスを受ける立場からすると具体的で無く改善が難しい。「△△さんが〇〇と言ってたけど、詳しく説明してくれませんか?」の言い方を覚えましょう」など、なるべく言い方をアドバイスすることとする。

以上に基づき、目標とするアドバイスの作成を目指した。

### 3. ディスカッションの収録とインタビュー

グループディスカッション後にインタビューを実施、それを基にアドバイスを作成する。ディスカッションの参加者は大学4年生4人のグループ(2020年9月実施)、および大学3年生4人(同年11月実施)のグループの合計8人であった。ディスカッションはZoomで実施し、各参加者は別々の場所からオンラインで参加した。15分間、指定したテーマ(「子供に自主的に勉強をしてもらうには?」)についてディスカッションを行った。ディスカッションの終盤で、子供に勉強してもらう方法を一つに絞ってもらい、それを実施者側に報告することとした。

収録から5~7日後、参加者ごとにインタビューを実施した(2グループ目はディスカッション直後にインタビューを実施)。インタビューの内容は「ディスカッションで伸ばしたい力」「ディスカッ

ョンで改善したい点」の二つである。インタビューにおいて、たとえば、ある参加学生は伸ばしたい点について「コミュニケーション能力を伸ばしたい」と漠然としたことを答えていたが、さらに聞き直すことで、「周りの意見を引き出し、自分の意見を伝える力を伸ばしたい」と絞った回答を得られ、今回のインタビュー形式の有用性が確認できた。

インタビュー後、2章の内容と収録内容の観察に基づき著者らで議論しアドバイスを作成した(アドバイスの詳細は[江本2020]を参照)。その後、参加者ごとに Zoom に接続してもらい、アドバイスを記したテキストを示しながら、アドバイス内容を口頭で説明をした。その後実施したアンケート結果を図1に示す。アドバイスの分かりやすさについて7段階、実践できそうかについて7段階で回答してもらった。また自由記述の回答の抜粋を下記に示す。

- ・具体的な発言方法なども踏まえてアドバイスしていただきとても分かりやすかったです。
- ・アドバイス内容についてはとても的確なものだったので、できることから意識してグループディスカッションに臨みたいと思います。
- ・アプローチの方向を変えてみるというのはいいとも思いました
- ・素直に納得できるアドバイスでしたが、その発想はなかったという風な驚くようなこともなかった。

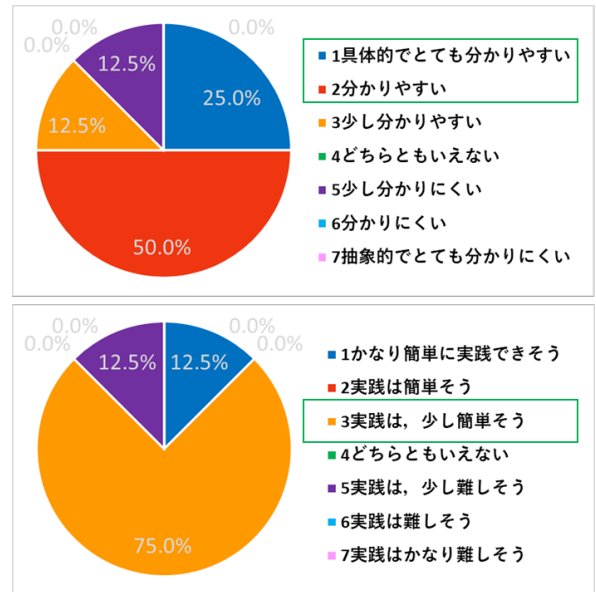


図1 アドバイス直後のアンケート結果(8人)

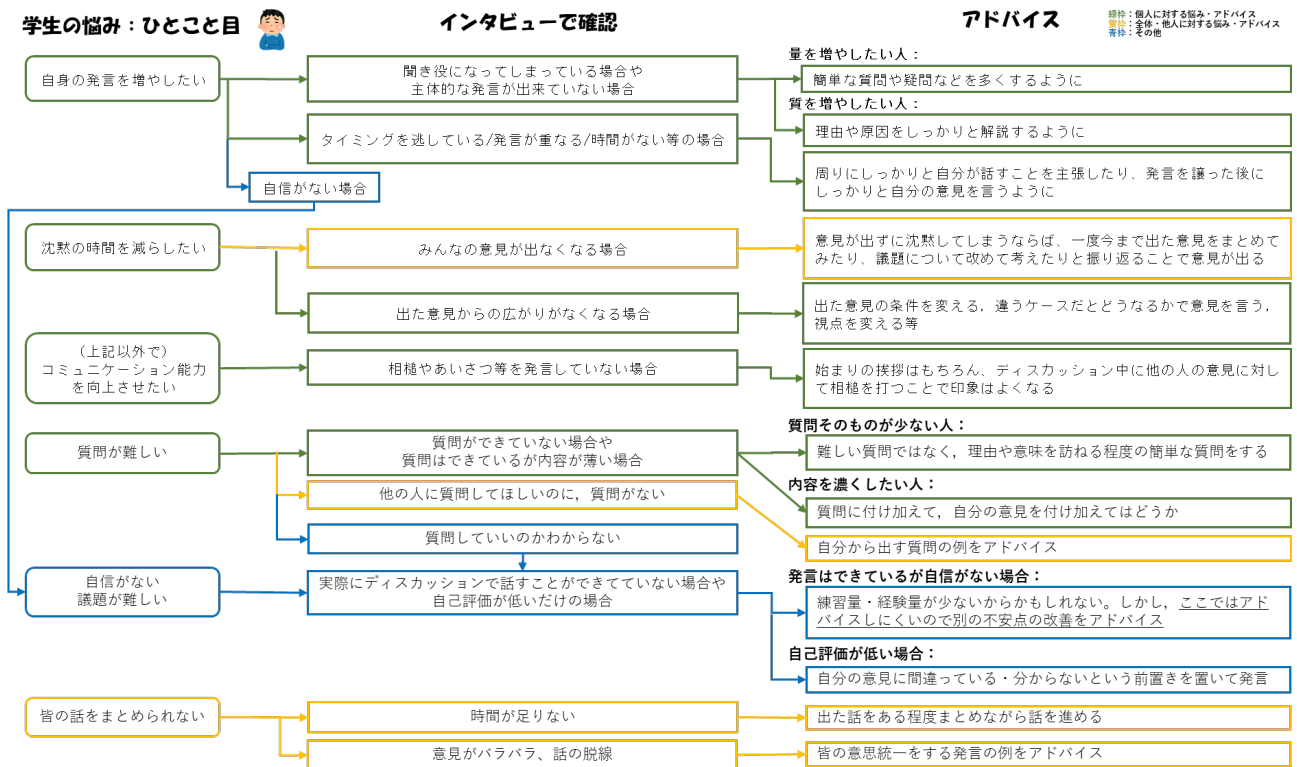


図2 学生へのインタビューを基に作成したアドバイス・チャートの案

図 1 のアンケート結果では「分かりやすい」の回答数が多く、また、自由記述でも「具体的な発言方法なども踏まえて・・・分かりやすい」との回答があり、当初の目的であった「具体的に」「分かりやすい」アドバイスの作成はできていたと考えられる。また、「実践は少し簡単そう」の回答が多く得られており、実践しやすいアドバイス作成を目指すことに即した結果であったと言える。このように 2 章の内容に従ったアドバイスの作成は概ねできていたと考える。

二つのグループのディスカッションとアドバイス作成を通し、インタビューからアドバイス作成までの手順をまとめたものが図 2 のチャートである。このチャートを用いることで、学生へのインタビューを実施した際にインタビューされた人の回答を分岐でたどることで、的確なアドバイスを提供することを想定している。今後、収録数やインタビュー数を増やして、チャートの有用性の検証や改善を重ねていく。

次章では、再度ディスカッションを実施することで、作成したアドバイスの有用性を確認する。

#### 4. アドバイス後のディスカッションとアンケート結果

作成したアドバイスの有用性を確認するため、同じメンバーで再度ディスカッションを実施してもらった。テーマは、「子供をスマホゲーム依存させないためには？」とし、ディスカッション終了時に有効と思う方法の一つを選び、報告してもらったこととした。ディスカッション後のアンケートでは改善できた点があるかについて 7 段階で回答してもらった。結果のグラフを図 3 に示す。図 3 の回答からは、「すこし改善できたことがある」の回答が多く、実践しやすいアドバイスを目指すとした狙いは満たされたと考える。

記述回答についても下記に示す(問 1 と問 2)。「～ができた」「～が参考になった」などのコメントがあり、アドバイスに一定の有用性があったことが見受けられた。

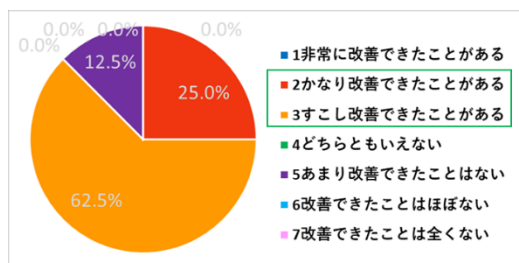


図 3 ディスカッション後のアンケート結果(8人)

問 1: アドバイスを通して、今回のディスカッションで実践や改善できたこと(実践や改善を試みたこと)があればお書きください。

- ・自分の意見が正しいか迷ったときでも他の人に何う形で発言することで発言を躊躇うことが少なくなりました。
- ・なるべく他の人の意見を取り入れるようにした
- ・今まで出た案の話で次の話に切り出すなど、会話に詰まった時の新たな会話の切り口をつかむことができた。
- ・なるべくテーマに沿った発言に心掛けてグループディスカッションを行うことができ、ディスカッションを膨らませることができました。
- ・他の人が意見を言っている間に意見を考えて発言することが出来た。
- ・なるべく自分は話さず、詰まりそうになったときの話題提供を心掛けた。
- ・他人の意見に賛同するような発言をした

問 2: ディスカッション(前回と今回)およびアドバイスを通して、「学べたと思うこと」をお書きください。(“実践や改善はできなかったけど学べたと思うこと”も可)

- ・効率よくディスカッションを回すための発言の仕方を学べたと感じました。
- ・会話が途切れた時の時間をうまく使う事(今までの案を振り返る)
- ・実践はできなかったが、「～の意見について○○さんどう思いますか？」という切り口は良い案だと思いました。
- ・グループディスカッションを発展させるためには、進行役や聞き役など様々な役割に回ってあげることが大切だと感じました。
- ・自分の意見を言いながら他人の意見も求めるというやりかたは非常に参考になった。
- ・相手に確認を取るなどの発言によって相手の意見を理解しやすくなる

このように、作成したアドバイスに一定の有用性が見られたが、参加者への主観的な調査に留まっていること、および協力者数が少ないことから、アドバイスの有用性の評価にはさらに追加の検証が必要と考える。継続して収録数を増やしインタビューをすること、アドバイスの前後でのディスカッション内の言動変化を分析すること等により、アドバイスの有用性を探る必要がある。

#### 5. まとめ

本研究では、学生間で改善点をアドバイスすることでディスカッションスキルを向上させることを想定し、ディスカッションについての専門知識がない学生にも理解しやすく、実践しやすいアドバイスにすること、アドバイスのためのチャート作成に取り組んだ。今後、追加のディスカッション収録やインタビューから、チャートの有用性を検証する。

学生には個人ごとにディスカッションの能力に差があると考えられる。よって、たとえば個々の学生にとっては「そもそも自身に何ができていて何が足りていないか分からない」という問題もあると考えられる。個々の学生のディスカッションスキルに応じたアドバイスを段階的・体系的に説明したものがあればよいが、著者の調べた限り、それらを段階的・体系的に説明したものは見当たらない。個々の学生のスキルに応じたアドバイスを検討していくことも課題である。

なお、今回のグループディスカッションはオンラインで実施しており、アドバイスの作成は主に発言内容を参考にしている。今後、収録環境を整え、会話参加者の発言内容だけでなく、非言語行動も含めたコミュニケーション行動の分析と、それに基づいたアドバイス作成を目指していく。

#### 謝辞

グループディスカッションの収録およびインタビュー、データのご提供にご協力いただいた東京電機大学 システムデザイン工学部 酒井元気研究室の皆様、湘南工科大学の皆様へ深く感謝致します。本研究は科研費(課題番号:19H01719)の助成を受けた。

#### 備考

本稿の一部は過去の報告[江本 2020]における記述が利用され、追加の検証結果および考察を述べている点を注記しておく。

---

## 参考文献

- [中野 2018] 中野, "大学生からのグループ・ディスカッション入門," ナカニシヤ出版, 2018.
- [西口 2015] 西口, "グループディスカッションのためのコミュニケーション演習," ナカニシヤ出版, 2015.
- [吉田 2014] 吉田, 東大ケーススタディ研究会, "東大生が書いた議論する力を鍛えるディスカッションノート," 東洋経済新報社, 2014.
- [大嶋 2013] 大嶋, "すぐできる! 論理的な話し方," 日本能率協会マネジメントセンター, 2013.
- [大塚 2011] 大塚, 森本, "話し合いトレーニング—伝える力・聴く力・問う力を育てる自律型対話入門," ナカニシヤ出版, 2011.
- [塩田 2020] 塩田, 嶋田, "議論参加者の陳述評価に向けた複数人議論コーパスの構築," 信学技報, NLC2019-36, 2020.
- [本多 2020] 本多, 塩田, 嶋田, 齊藤, "マルチモーダル情報を考慮した議論の取りまとめ役推定," 信学技報, NLC2019-41, 2020.
- [三浦 2020] 三浦, 岡田, "マルチモーダル情報に基づくディスカッションタスクに依存しないグループ会話の質の推定," 信学技報, NLC2019-40, 2020.
- [小川 2019] 小川, 徳永, 武川, "グループディスカッションに参加する大学生における振舞いの分析," HCG シンポジウム 2019, 2019.
- [川島 2019] 川島, 徳永, 武川, "グループディスカッション参加者の発言における論理構造に着目した振る舞いの事例分析," HCG シンポジウム 2019, 2019.
- [江本 2020] 江本, 小山, 遠藤, 小城, 湯浅, "学生によるグループディスカッションの助言作成の試み," 信学会 HCG シンポジウム 2020, 2020.